

## プレ「知のオリンピック」オンライン大会発表予稿調査票 (Ver. 3.1)

【評価基準】①新規（奇）性、②論理性、③有効性、④持続可能性、⑤社会貢献性

【SDGsとの関連】当大会6つの競技分野毎に設定しているSDGsを意識して予稿をお考え下さい。

項目	発表予稿	
発表者氏名	山村 延郎	
研究クラスタ名	金融の知	
発表テーマ	オランダにおけるスマート農業の金融実務	
参加方式（右の候補から選んで下さい）	×メイン会場参加、○Zoom オンライン参加、×Zoom ビデオ参加	
<b>【序論】</b> 1. 現状に対する課題認識 （どのようなイノベーション等の課題に取り組むのか）	「オランダの金融機関は同国のスマート農業企業が新規参入するときによどのようなサービスを提供しているのか」を解明する。	
<b>【背景・思い】</b> 2. イノベーション課題解決のための思い・背景 （何故、その思いに至ったのか）	1. 日本の農業は、他分野からの参入を促進し、ビックデータ、ロボットなどの技術・ノウハウを活かしたイノベーションを起こす必要がある。それには、この分野に十分な融資がなされる必要がある。 2. ところが既存の金融機関は、担保や過去の事業収益にとらわれすぎて、新規の就農者に大規模な融資をする姿勢が整っていない。 3. 最近になって、オランダがスマートアグリで取り上げられるようになったが、筆者が15年前にオランダの農業系統金融機関ラボバンクに調査に行ったときは、農業や農業金融に全く見るべきものがなかった。これは、その間にイノベーションが起きたことを示唆する。 そこで、このイノベーションに金融機関がどういう関与をしているのか解明しようと考えた。	
イノベーション課題	<b>【価値等の設定】</b> 3. 新たな価値等の設定 （対象とする顧客や新しく生まれる価値等の設定）	高賃金ながら輸出競争力ある生産のできる効率的な農業を、パートナー企業とともに金融サービスで支える。 SDGs 目標: 2 飢餓, 8 働きがい, 17 パートナーシップ ターゲット 2.3 投資・知識・金融サービス ターゲット 8.3 ベンチャー金融 ターゲット 17.17 公的・私的な様々なパートナーシップ
	<b>【ニーズ】</b> 4. 価値等を高めるためのニーズの明確化 （対象とする価値・市場ニーズ）	① 将来性のある農業プロジェクトに、巨額の融資が迅速に受けられること。 ② 新規のテクノロジーを利用したプロジェクトにも、巨額の融資が迅速に行われること。

<p>解決方法の検証</p>	<p>(顕在・潜在など)の明確化)</p>	<p>③ 仮に貸出先が倒産しても金融機関本体が傷つかないよう、金融機関のパートナーシップにより、適切なリスク転嫁やリスク分担を行えること。</p> <p>④ 貸出先が新規技術を導入しビジネスを拡大していけるよう、技術開発者やイノベーターと提携して、新しいスマートアグリ技術やスマートアグリ市場について学ぶ機会が与えられること。</p>
	<p><b>【システム】</b></p> <p>5. ニーズ対応システムの設計等 (上記ニーズに対応する<b>仕組み</b>や<b>システム</b>の設計等)</p>	<p>1, 事業性融資</p> <p>① 融資担当者の裁量が大きいこと</p> <p>② 農業技術に関する造詣の深さ</p> <p>③ 貸出金利の高さ</p> <p>④ 金利の高さを維持するアルフィナンツ・システム</p> <p>2, 顧客の愛顧を勝ち取るシステム</p> <p>① 公的保証によるリスク転嫁</p> <p>② クラウドファンディング</p> <p>③ リース子会社の利用</p> <p>④ コンサルティングサーピス</p>
	<p><b>【結果・新たな事業価値】</b></p> <p>6. 当イノベーションにより生まれた結果や新たな事業価値 (上記新システムにより生まれた<b>結果</b>や<b>新たな事業価値</b>)</p>	<p>オランダのスマート農業の融資におけるイノベーションの結果として、大規模土地・資本集約型で新技術を用いる「スマート農業」が可能になった。</p> <p>これによって、融資を受けた農家が金融機関のプラットフォームにより新技術の知識を得ることができ、新技術の開発者たちもネットワークを形成することができた。</p> <p>そのネットワークを世界に広げることにより、オランダ型のビジネスモデルを世界展開している。</p>
	<p><b>【結果の考察】</b></p> <p>7. 当イノベーション等の結果考察 (当イノベーション提案・研究により<b>生まれた効果</b>や<b>今後の課題</b>等に関する考察)</p>	<p>1, 日本の金融機関がオランダに学ぶことができるのは、将来性に期待して、様々なパートナーシップでチームを作って、資金や情報の提供をするという金融システムのあり方である。</p> <p>2, ただし、オランダのような大規模な植物工場が可能かどうかは、国の農業政策に左右される。今の日本では、比較的新規就農農家に対する小規模融資に利用するとよい。</p> <p>3, 農家に対してではなく、スマート農業の技術開発と情報機器のベンチャーファイナンスや、スマート農業をめぐるエコシステムの海外への普及にも、金融機関が絡んでいる。この部分については、今後の研究課題である。</p>